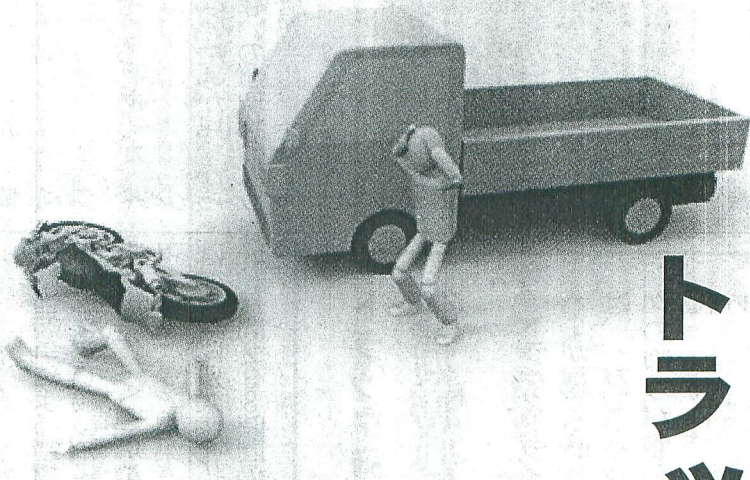


泥酔バイクが側面衝突

トラック側を誤認逮捕

「気の毒な事故でしたね」。そんな一言で片付けられるのは納得がいかない交通事故が、11月末に関東圏のある運送事業者で起こった。安全と環境保持は今や心ある事業者であれば取り組んでいるが、同社では「どんなに気を付けていても、事故も起きる」との思いを語る。



事故は、早朝の4時半ごろ、走行していた同社のトラックにバイクが衝突したというものだ。トラック側の信号は黄色点滅で、バイク側が赤点滅。トラックは確認したうえで時速30キロ以下でゆっくりと走行していたところ、バイクが側面に突っ込んできたという。

事故は、早朝の4時半ごろ、走行していた同社のトラックにバイクが衝突したというものだ。トラック側の信号は黄色点滅で、バイク側が赤点滅。トラックは確認したうえで時速30キロ以下でゆっくりと走行していたところ、バイクが側面に突っ込んできたという。

事故は、早朝の4時半ごろ、走行していた同社のトラックにバイクが衝突したというものだ。トラック側の信号は黄色点滅で、バイク側が赤点滅。トラックは確認したうえで時速30キロ以下でゆっくりと走行していたところ、バイクが側面に突っ込んできたという。

一般紙にも誤報

同社が警察に問い合わせると、逮捕されたドライバーは10日間拘留されるといふ。バイクの運転者は入院、自社のドライバーは逮捕されて拘留中のため、

だが、翌日の一般紙は「自動車運転過失傷害容疑で現行犯逮捕」と住所と本名を載せられてしまった。

新聞1紙には、バイクが直進中に左から来た

今後はトラック業界でも期待

これまでタクシ業界では、平成21年10月に「タクシ適正化・活性化特措法」が成立し、都市部などの競争が激しく地域公共交通

今回の改正で、協議会が策定する事業計画に定めるものは「独占禁止法から除外され

タクシ業界の悲願だった改正法成立にこぎ着けただけにトラック業界でも今後、行き過ぎた規制緩和に歯止めを掛けられるか期待されている。

世界の悲願

「等」の導入

氏に絶賛

2法)が11月20日に衆議院本会議で可決、成立した(12月2日号既報)。この改正法成立の立役者の一人が、トラック業界で重責を担う坂本克己氏である。タクシの運賃設定は地域ごとに上限・下

きない地域を原則3年間「特定地域」に指定し、地域事業者らで構成する協議会で減車計画を策定していた。し

が、今回、改正法成立の立役者の一人が大ト協会長、全ト協副会長などを務める坂本氏だけに目を引く。

タクシ業界の悲願だった改正法成立にこぎ着けただけにトラック業界でも今後、行き過ぎた規制緩和に歯止めを掛けられるか期待されている。

(山田克明)